

地元を支える金融インフラを目指して。 アクアコイン体験レポート

千葉県木更津市が普及を推進する「アクアコイン」は、現状、国内最新のデジタル地域通貨である。地元では実際にどのように活用されているのか。その仕組みや使用感、そして普及具合といった実情と今後の可能性を確かめるべく、今回、編集部が現地で体験取材を行った。

photograph: Takao Ohta

頑張る人を後押しする 市役所の活動

日本の産業構造や人口構成に変化が表れ始める1990年代から2000年代前半にかけ、地域コミュニティの相互扶助を目的として、多くの地域通貨が誕生した。ピーク時には全国で約3,000種類もの現物の地域通貨が存在したともいわれている。しかし、運営コストがかさむことを理由に、その大半が姿を消した。

ブームから20年程経過した現在、デジタルに形を変えて、地域通貨は再び脚光を浴びている。背景には、地方創生に向けた取り組みの推進や、フィンテックによる金融サービスの進展がある。アクアコインについても、もちろん例外ではない。木更津市が導入を決めた具体的な背景や意図はどのようなものなのだろうか。

実際に使い勝手を体験する前に、アクアコインの振興・普及を行う市の産業振興課で、鈴木昭宣氏と西原司氏の2人にまずは話を伺った。

*

アクアコインは2018年10月1日からスタートした、新しい地域デジタル通貨システムです。君津信用組合、木更津市、木更津商工会議所が連携し、新たな街づくりのインフラ・ツールとしていくため普及を図っています。地元のイベント「ちばアクアラインマラソン」開催に合わせて導入を予定していたため、構想から1年足らずで実現にこぎつけることになりました。

多くの地方都市と同様に木更津市でも、地域外にお金が出てしまうことが大きな課題です。そのため地域の小さなお店を守り、やる気のある事業者を応援できる仕組みづくりが必要でした。そしてその仕組みは、お店にとっての利便性はもちろん、地元により循環を生むことも求められます。どうすれば、

店舗と消費者の双方に「アクアコインならやってみよう」という気持ちを抱いていただけるのか——。そこで、アクアコインに「地元に関わる機会を増やすためのシステム」を付加したのです。

そうして2019年5月、社会的な活動を後押しするポイント制度「らぶポイント」の運用を開始。市や団体が主催するセミナーや地域のまちづくり活動等に参加した人にポイントが付与されるようになりました。ポイントを獲得するには、ポイントカードの裏面のQRコードを「アクアコイン」アプリで読み取るだけ。これが地域興しの一つのきっかけになれば、そう願っています。

*

「地元への気持ち」が可視化されれば、地域のコミュニケーションやボ

ランティア参加のハードルを下げ、主催者と参加者との距離も縮まるはず。アクアコインは行政が普及を推進する金融インフラであることから、信頼性も安心感もお墨付きといえる。そのような背景もあり、加入店舗は500店、チャージ額は1億9,412万円に達しているという(2019年11月25日現在)。

木更津市は2016年に「オーガニックシティ」宣言を行い、「自然をはじめ、周りに配慮する人と街づくり」をうたっている。その理念を実践するため、定期的なイベントを開催したり、給食に有機栽培米を導入したりといったトライアルなどが行われている。さらにアクアコインのシステムが加われば、地元にとって、「思いやりとコインの循環」という良いサイクルが築かれることが



話を伺った木更津市経済部産業振興課の鈴木主幹(右)と西原さん。木更津駅前庁舎にあるオフィスは活気にあふれていた

〈アクアコインのチャージ方法〉



①チャージ機の画面をタッチ。チャージ金額を選んで入金

②アプリでQRコードを表示

③QRコードをチャージ機に読み取らせる

④チャージ内容を確認。問題なければ実行ボタンをタッチして完了

⑤画面にチャージ金額(1万コイン)が表示される

チャージ用のプリペイドカード。1,000円、3,000円、5,000円、1万円の全4種



地域振興の活動などに参加するともらえる、らぶポイントカード。アクアコインと連携し、ポイントがチャージ金額に反映

期待できる。

市民はもともと地元愛が強く、地域の祭りも大勢の人たちが協力して盛り上がっているようだ。そうした連帯感があれば、新たな試みがこの先どのようなフェーズにあっても、人々の協力で乗り越えられるのではないかと、という希望を感じた。

誰にでも使いやすい アクアコイン

アクアコインのシステムは、QRコード決済である。スマホにダウンロードしたアプリを用いて、事前にチャージを行った上で、店頭のQRコードを読み取って決済する。チャージ方法は、君津信用組合の窓口か、自動チャージ機、プリペイドカードの3種類があるが、編集部は自動チャージ機を選択した。

まずスマホにアプリをダウンロードして、メールアドレスを登録。その後、

現金をチャージする。自動チャージ機は、スーパーほか商業施設など、市内5カ所に設置されている。木更津駅前の観光案内所にも設置されていたので、そちらでチャージすることにした。

現金チャージは、1,000円から4万円が選択可能。1万円のチャージ金額を入れ、QRコードを読み取って完了。無事にチャージ金額が表示された。

早速アクアコインを使用してみる。

各店舗での アクアコイン使用

市役所近くの歴史ある地元の八剱八幡神社に出かけてみる。アクアコインが使用できるかどうかわからなかったが、神札や守り札などを授与いただく社務所にアクアコインの表示を見つけたので、寄ってみた。何にするか散々迷った結果、木更津らしい「アサリみくじ」を引くことにする。

まず、店舗に表示されているQRコ



八剱八幡神社から徒歩数分の證誠寺。ここは童謡「証城寺の狸囃子」で有名で、歌碑も立つ

ードを読み取って、納めるべき500円に相当するコイン数「500」をアプリ上で入力。金額をスタッフに見せて確認が済んだら、画面の一部をスライドさせる。「アクア！」の音声がかえたら、決済完了。金額表示がキャブチャ画面ではないことの証明として、購入金額が点減する仕組みになっている。

購入者側の手入力と、スタッフへの金額確認の手間が少し気になるものの、お店のスタッフとのコミュニケー



①チャージ機もある駅前の木更津市観光案内所の壁には、懐かしい映画『木更津キャッツアイ』の看板。市民の熱い想いがうかがえる ②言わずと知れた氣志團も地元出身



③駅近くに鎮座する八剱八幡神社を訪れると、アクアコイン使用可能の掲示が目に入った ④⑤社務所にて木更津ならではのアサリみくじを引く。初穂料がアクアコインで納められて感激





①創業明治30年の老舗料理店『宝家』で昼食。新鮮な魚介や野菜など地元食材を使った味わいが評判 ②注文したのは「宝家名物 あさり御膳」。かき揚げと串揚げのミックス版 ③アプリに該当金額を入力し、レジにてアクアコインで支払い。アクアコインを使用する客も確実に増えているとか



④農林水産大臣賞を受賞した「麦こがし」や「無花果羊かん」など人気の菓子が揃う地元の和菓子店『菓匠 梅月庭』 ⑤ここではお土産に「落花生ラスク」を購入。会計はアクアコインの残額と現金を併用して支払った

ションの機会が得られ、またシステムが信用できるものだという安心感が持てるのではないだろうか。

その後、木更津を代表する老舗の料理店『宝家』と、地元で人気の和菓子店『菓匠 梅月庭』でもアクアコインを使用。途中でアクアコインのチャージ金額が不足してしまったが、現金と併せて支払うことができた。いずれのお店でも店員の方に親切に教えていただいたので、戸惑いもなく比較的スムーズに決済を行うことができた。

「オーガニックシティ」を支える決済システムへの期待

最後に、「オーガニックシティ木更津」のコンセプトを具現化しているかのようなお店を訪れた。『かずさスモーク』は、オイルや醤油などの液体調味料を直接燻製にした「燻製調味料」を手掛ける珍しいお店だ。製造の過程で、香料・くん液・着色料などを一切付加していない「無添加」にこだわっている。燻製業界では初めての「有機JAS認定」を取得し、原料や資材の完全トレーサビリティも確保。燻製のオリーブオイルや醤油、マヨネーズなどの製品は、どれも芳醇な香りがして、そのこだわりが伝わってくるようだ。

もちろんこの店舗でもアクアコインが使用できるのだが、残念ながらチャージ不足のため、他のキャッシュレス決済手段を使うことになった。

『かずさスモーク』では、キャッシュレス決済方式として、アクアコインとク

レジットカード、そして代表的なQRコード決済アプリに対応している。もともとキャッシュレス決済非対応だったが、複数のテレビ番組で店が紹介されたことをきっかけに問い合わせが増え、クレジットカード決済へのニーズも高まり、導入に踏み切ったそうだ。店舗と購買者の双方に利便性のあるキャッシュレス制度は大歓迎だが、今後、もう少し数が集約されると、支払いの際に迷わなくて済むのに、という点で、店の方とも話が盛り上がった。

訪問を終えて

アクアコインを体験取材することが目的だった今回の訪問を通して、人と土地の魅力に触れることができた。各店舗ではアクアコインについても親切に説明をしていただけた。現在、木更津市の方々の買い物は、大型アウトレットやショッピングモールを利用す

るケースも多い。それに対して自治体では、地元で頑張る事業者からの購入機会を増やし、その流れを定着させたい、という目標を掲げている。

モビリティやインフラの発展、テクノロジーの進化は「中央と地方」の垣根を低くし、人や資金の流れを生み出すことが期待される。しかしその一方で、資本力の大きいほうに資金が流出していく傾向が強まることへの危機感は、多くの地域の共通認識である。

そのような中、地元を守っていくための、大手と別指標での経済価値基準の必要性がうたわれている。

木更津のアクアコインはまだ導入して1年余りで、始まったばかりといえる。大企業のQRコード決済とは一線を画し、今後も地元の活動との連携を強め、電気や水道のように「なくてはならないインフラ」に成長することを期待している。



⑥『kazusa smoke』を運営する(株)リオの市川奈生専務。燻製調味料でのオーガニックの取り組みは、多方面から注目を集めている ⑦オリーブオイルや醤油、マヨネーズ、ステーキソースなどの燻製品が並ぶ店内。料理に少量加えると、味違ったことのない新鮮な美味が楽しめる ⑧店舗は製造工場に併設